

ほっとらいん
ふろむ
ほんこう

「看護学雑誌」1989年4月号から 諸橋一家の「われらカンゴ族」

平成がはじめた1989年、小社発行の看護総合誌『看護学雑誌』53巻4月号の巻頭グラビアに、3人の看護師の肖像が掲載されました。

由美子「母にも妹にも内緒で、記念になるからと思って。ほんの軽い気持ちで……出られると思わなかったのですから」

テル「話を聞いてびっくり」

宏子「私も事情がよく分からないまま、姉からちよつと長岡に帰って来なさいと言われて」

由美子「小さい時からずっと看護婦になりたいと思っていたので、迷うこ



写真：左から、テルさん、宏子さん、由美子さん。奥の建物はカンゴ族

われら
カンゴ族

母 諸橋 テルさん
長女 宏子さん
次女 由美子さん
次女 宏子さん

由美子「母にも妹にも内緒で、記念にもなっていて、ほんの軽い気持ちで……」
宏子「私も事情がよく分からないまま、姉からちよつと長岡に帰って来なさいと言われて」
テル「話を聞いてびっくり」

となく一直線に突き進んで」

宏子「姉がなったものだから、友達とかも私は看護婦になるものと思っていて、なんかそれ以外は考えられないという感じでした」

テル「これで老後は安心していられるんじゃないか、なんて不届きなことを考えています。2人のプロに介護してもらえるでしょうからね」

母・諸橋テルさん（長岡赤十字病院人工腎センター婦長。当時）。長女・由美子さん（長岡赤十字病院脳神経外科病棟）。そして次女・宏子さん（都立駒込病院消化器外科病棟）。

この企画「われらカン

ゴ族」は、親子、姉妹、夫婦などを問わず、看護に携わる人々の姿と声を紹介する読者参加型の人気企画でした。

本特集での諸橋由美子さんの手記から、遡ること22年。本号の912の諸橋母娘の今と合わせて復刻しました。